

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川・流域再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的として、2006年11月に(財)リバーフロント整備センターが設立した団体です。また、「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に、アジアの素晴らしい取り組みを日本国内に還元する役割も担います。

目次

	Pages
➤ JRRN 活動報告	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 研究・事例の紹介	6
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ	7
➤ 会議・イベント案内	8
➤ 冊子・ビデオ等の紹介	8
➤ 会員募集中	9

巻頭書記

毎日暑い日が続いています。日中、外に出るたび「水に浸かりたい!」と思わず叫びそうになります。夏と言えば「海」もいいですが、「川」を選んでみるのはいかがでしょうか?そして、大人も水遊びしたいと思えるような「川」が増えていくといいですね。皆様のおすすめの川があれば、ぜひ教えてください。

本号では、5月に開催しました第5回 JRRN ミニ講座の講演録発行のご案内と韓国「未来資源研究院」意見交換会の報告、また会員からの寄稿記事を2件ご紹介いたします。

引き続き、JRRN 会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

第5回 JRRN 河川環境ミニ講座「流域連携による河川再生～イギリス・マージ川流域キャンペーン」(平成22年5月11日開催) 講演録発行のご案内

平成22年5月11日(金)に開催しました『第5回 JRRN河川環境ミニ講座「流域連携による河川再生～イギリス・マージ川流域キャンペーン」』(講師・Walter Menzies氏)の講演録が完成しました。

講演及び質疑応答の内容を通じ、イギリスにおける25年に及ぶパートナーシップを軸とした河川・流域再生の概要、またマージ川に関わる既刊書籍やホームページ等では掴みきれない教訓や苦労話など理解する際にご活用頂ければ幸いです。

※ミニ講座の概要はこちら

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2132.html>



※講演録は以下からダウンロードできます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2246.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 活動報告(2)

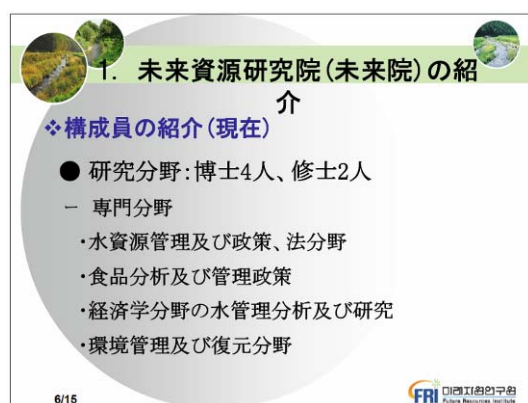
韓国「未来資源研究院」意見交換会の報告

2010年7月6日（火）、韓国の民間水資源政策シンクタンク「未来資源研究院」所属の研究員1名が来日し、河川再生や異常気象への取り組みを中心にJRRN事務局との意見交換を行いました。

<プログラム>

- JRRN事務局より、ARRN/JRRN及び（財）リバーフロント整備センターの概要説明
- JRRN事務局より、日本における気候変動に関わる取り組みの話題提供
- JRRN事務局より、日本における多自然川づくりや自然再生事業の概要説明
- 韓国側より、未来資源研究院の紹介及び河川再生や水資源管理に関わる話題提供
- 河川再生や水資源管理全般に関わる意見交換

「未来資源研究院」は、前身の「未来水資源環境研究所」（2004年設立）を2008年に現在の名称に改め、気候変動適応策、水資源を含む資源管理政策、流域総合管理、環境管理などを研究するシンクタンクとして設立された民間組織です。



「未来資源研究院」では、気候変動の影響評価、水資源管理及び環境管理分野を中心とした取り組みを行っています。現在の韓国では水資源と環境を結びつけたモデルはまだ少なく、今後積極的に環境という視点を取り入れた取り組みを行っていくため、河川・水分野に関わる環境施策、管理、気候変動へ

の対処などについての情報収集と意見交換を目的に来日し、日本の複数の関連機関を訪問されるとのことでした。



「未来資源研究院」の中長期の目標としては以下の内容のご説明がありました。

<中期目標>

■ 水環境エネルギーそして気候変動の管理
自然資源と関連された部門研究の集中

☞ 研究分野および事業領域の拡大

1. 人的資源と文化資源を含むより広い意味の研究
2. 資源管理の方向及び政策諮問の領域拡大
3. 資源管理と関わる国際協力事業

<長期目標>

■ 資源管理に関する中心的な総合研究機関へ発展
国家研究機関を超える代表機関に至る

☞ 2011年頃まで資源管理のエンジニアリング分野及び国際協力事業分野まで拡大

日本でも「気候変動」というキーワードが最近よく見られますが、この分野においても今後アジアで連携した取り組みが必要となると感じました。

◆詳しくはホームページ内にも記載しています。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2228.html>

(JRRN 事務局 沼田彩友美)

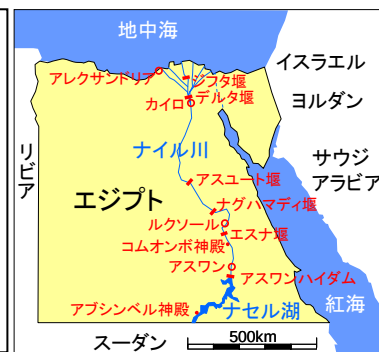
会員寄稿記事(1)

現代のエジプトはアスワンハイダム の賜物？

寄稿者：財団法人リバーフロント整備センター 水辺まちづくりグループ

主席研究員 江橋 英治（JRRN 会員）

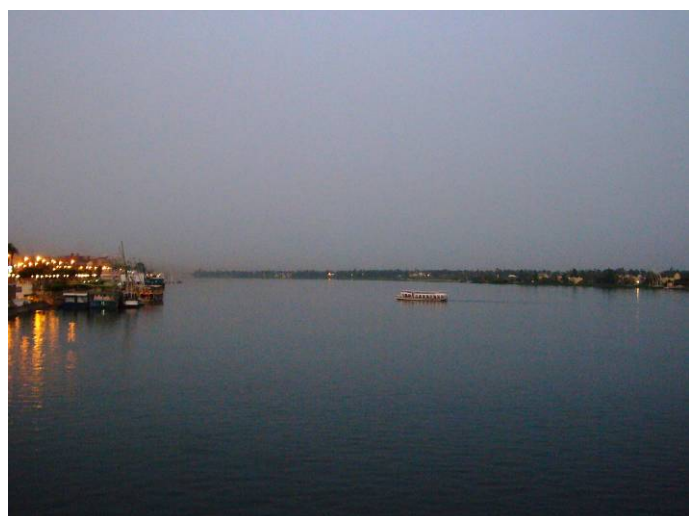
7月に夏休みをとって酷暑のエジプトを旅行した。その際、ナイル川をみる機会があった。そこで、(1) ナイル川、(2) ナイル川に関する水路、(3) 関係施設等を写してきた。1970年完成のアスワンハイダムによって、エジプトの産業・経済は大きく発展し、観光クルーズも通年・一般化した。一方で、海岸での土砂供給の減少の影響（近年アレクサンドリアでクレオパトラ時代の海中遺跡が発見されるなどの思わぬ影響もある）など、アスワンハイダムの効果・影響の大きさを感じさせる旅であった。



ナセル湖(アスワンハイダムのダム湖)とアブシンベル神殿:もとの場所はダム湖底(現位置に移設)



アスワンハイダム下流のアスワン市のナイル川:十分な水位があり、ここから観光クルーズ船に乗船



ナイル中流部のルクソール市(王家の谷、神殿等が多数ある歴史都市):今回クルーズ船はここまで



カイロ市内のナイル川:右側(左岸)は島であり、この部分は右支川にあたる

会員寄稿記事(1)



ナセル湖から砂漠地帯を西に向かう用水路: 今後、ヌビア人(ダム水没民族)による農業開発を予定



ルクソール市の用水路: かつて定期的洪水で運ばれた黒土(壤土)は、鉄道で運ばれているとのこと



治水施設という奇説もあるピラミッドと、カイロ市内の水路: 開水路は廃止しつつあるとのこと



中流コムオンボ神殿のナイルメーター(水位計): かつてナイルの氾濫水位は農政上極めて重要だった



アスワンハイダム下流の第一堰に当たるエスナ堰(利水、舟運)の閘門: クルーズ船で夜に通過



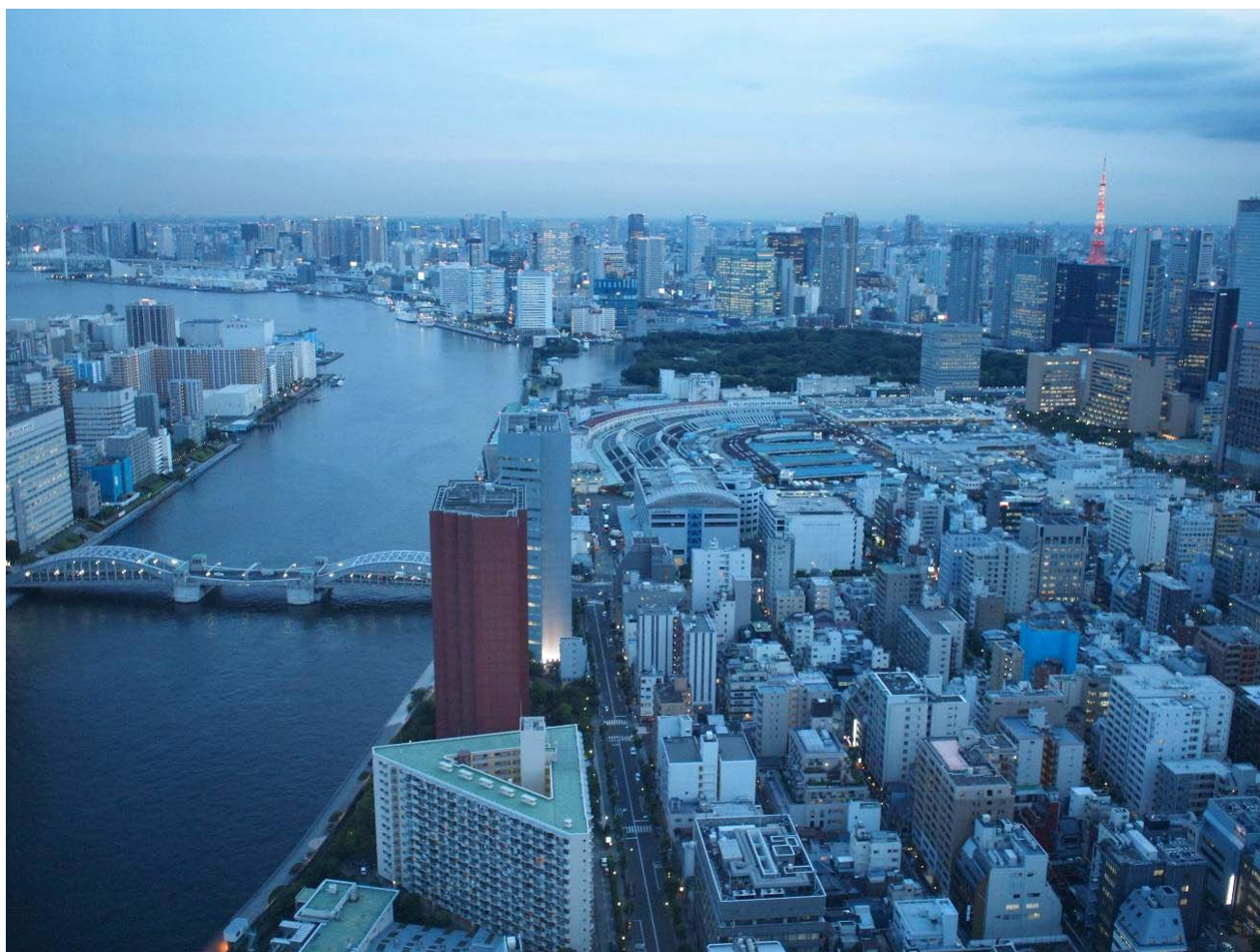
海岸浸食対策がされているアレクサンドリア市の海岸: 後方はファロス灯台跡に建つカイトベイ要塞

会員寄稿記事(2)

水辺からのメッセージ No.15

国土文化研究所 主任研究員 岡村幸二（JRRN 会員）

夕暮れ時の美しい東京風景：
都会の喧噪を忘れさせ、また前向きに明日を考える瞬間（とき）



撮影：2010年6月（東京都中央区明石町）

◆東京の俯瞰景にも多くの風景資産

聖路加タワーから見た風景には、いつまでも変わらない建造物として、東京タワー、浜離宮庭園、築地市場などが見られます。左側に見える晴海・勝どき地域は、1998年に有楽町線の月島駅が開通し、大幅に交通アクセスが改善されて急速に開発が進んでいます。めまぐるしい変ぼうの中にあっても、隅田川のかちどき橋は70年以上変わらぬ姿を示しています。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

研究・事例の紹介

「ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)」及び 新 ECRR ホームページのご紹介

JRRN が現在事務局を担う「アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)」は、ヨーロッパで先行して活動する ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) をモデルとして 2006 年 11 月設立されました。本号では、ECRR の概要及び本年 7 月にリニューアルされた ECRR ホームページについてご紹介致します。

■ ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) について

ECRR (European Center for River Restoration) は、デンマーク政府の資金援助によりヨーロッパ 22 カ国の合意に基づき 1999 年に設立され、欧州の河川再生と適正な河川管理を推進するための情報・人材共有ネットワークとして、ヨーロッパ各国の河川再生ネットワーク (River Restoration Network) の連絡組織の機能を担っています。

ECRR 設立後 3 年間はデンマークが、その後 4 年間はオランダが、続いて 3 年間はイタリアが ECRR 事務局を担い、設立 11 年目となる 2010 年からは再びオランダへと事務局が移り、ホームページやニュースレターを始め、諸活動のリニューアルが新オランダ事務局により進められています。

■ ECRR と ARRN の関わり

2006 年 11 月に東京で開催された ARRN 設立式典では、ECRR より Jukka Jormola 理事を招聘し、欧州における河川再生に向けたネットワーク活動の概要についてご講演を頂きました。

<http://www.a-r-r.net/jp/info/letter/establish/164.html>

また 2007 年に同じく東京で開催された第 4 回 ARRN 国際フォーラムでは、ECRR のイギリス支部組織に当たる RRC (英国河川再生センター) 事務局長で、ECRR 理事を務める Martin Janes 氏を講師としてお招きし交流を深めました。

<http://www.a-r-r.net/jp/info/letter/eventreport/376.html>

その後、2009 年 3 月にトルコ・イスタンブールで開催された第 5 回世界水フォーラムにおいて、ECRR 会長を務める Bart Fokkens 氏と ARRN 事務局との今後の協働に関わる意見交流を行い、現在まで相互の活動や行事の情報交換や、関連する国際行事での相互の講師派遣等の技術交流を継続して実施しています。

ECRR との交流成果は、引き続き、JRRN 情報共有媒体を通じ JRRN 会員皆様に還元して参ります。

(JRRN 事務局 和田彰)

【新 ECRR ホームページの紹介 (2010 年 7 月リニューアル版)】



URL: <http://www.ecrr.org/>

【ホームページ運営組織】

オランダ土地・水資源管理機構(DLG)

→<http://www.ecrr.org/news.html#news3>

【ホームページ内の掲載情報】

○ (トップ) ECRR 及び河川再生の概要紹介
※左見出し

○ 新オランダ事務局の紹介

○ 最新ニュース (新 RRN 設立、河川再生情報源データベース 等)

○ ECRR 設立 10 周年記念式典での ECRR 提言 (Lelystad 宣言)

※右見出し

○ 河川再生関連の行事ニュース

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2010 年 7 月分)

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 個人会員より、メキシコ湾原油流出からの沿岸汚染防止計画の工兵隊による許可否認に関する報道記事を 2 件御提供頂きました。



本記事を扱った二つの英文ホームページは以下よりアクセス可能です。(言語：英語)

→ http://www.nytimes.com/2010/07/07/science/earth/07rocks.html?_r=2
<http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2010/07/18/AR2010071802838.html?hpid=topnews>

また、上記英文記事に関する日本語仮訳資料も情報提供者より頂きましたので、参考情報として以下にご紹介いたします。(言語：日本語)

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2229.html>
<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2251.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 個人会員である法政大学陣内研究室・樋渡様より、7/31(土)に開催される「音濠 -今宵、音と波にゆられて-」のご案内を頂きました。

主催：法政大学エコ地域デザイン研究所
 企画、運営：法政大学陣内研究室
 協力：カナルカフェ



※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2227.html>

【海外からの情報提供】

■ECRR ニュースレターの最新号発刊 (2010 年 6 月号)

ECRR (ヨーロッパ河川再生センター) 最新ニュースレターを ECRR 事務局より送付頂きました。

本年より ECRR 事務局がイタリアからオランダへと移管し、オランダ事務局作成のニュースレター第 2 号となります。(英語版)

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2230.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 147 回】

- ◆テーマ：「渇水の動向とその対応」
- ◆講師：久保田勝氏 (社団法人 土木学会 理事)
- ◆日時：平成 22 年 8 月 23 日 (月) 18:00~20:00
- ◆場所：シェーンバッハ・サボー 3F「穂高」

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no147.htm

【第 148 回】

- ◆テーマ：「川と水の法律文化～比較と交流の理解のために」
- ◆講師：三本木健治氏 (国際水法学会理事)
- ◆日時：平成 22 年 9 月 27 日 (月) 18:00~20:00
- ◆場所：厚生会館 (全国土木建築健保)

http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_no148.htm

【JRRN 会員からの提供情報】

■「納涼船『灯りと堀割の柳川』」案内



平成 22 年 7 月 17 日 (土) ~9 月 5 日 (土)、納涼船「灯りと堀割の柳川」が開催されます。

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2245.html>

アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)より

■第 8 回生態水工学国際シンポジウム(ISE2010)

ARRN の韓国窓口組織である韓国河川再生ネットワーク (KRRN) 前事務局長・Hyoseop Woo 氏が現地組織委員会委員長を務める「第 8 回生態水工学国際シンポジウム(ISE2010)」が 2010 年 9 月に韓国・ソウル市で開催されます。

本年の「第 7 回 ARRN 国際フォーラム」は、本国際会議の特別セッションとして実施致します。日本からの多数のご参加をお待ちしております。

- ・開催時期：2010.9.12~16
- ・開催場所：韓国・ソウル市
- ・主催：韓国水資源協会

※詳細は以下参照 (言語：英語)

→ <http://ise-2010.org/>

会議・イベント案内 (2010 年 8 月以降)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

■ARRN 主催「第 7 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議」

- 開催時期：平成 22 年 9 月 12 日～16 日の間のいずれか 1 日
- 開催場所：韓国・ソウル市（第 8 回生態水工学国際シンポジウム ISE2010 内の特別セッションとして開催）
- 講師：ECRR（ヨーロッパ河川再生センター）会長、日本・中国・韓国・台湾・マレーシアより各 1 名
- URL：<http://ise-2010.org/>

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■多自然川づくり研修会（南与地区）

- 日時：2010 年 8 月 3 日（火）10:00～15:30
- 会場：五十崎自治センター
- 主催：鞍瀬塾事務局
- <http://www.a-rr.net/jp/event/02/2237.html>

■淡水魚保全シンポジウム 三重県明和町大会

- 日時：2010 年 8 月 5 日（土）13:00～17:10
- 会場：明和町中央公民館
- 主催：明和町大会実行委員会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2148.html>

■第 147 回 河川文化を語る会『渇水の動向とその対応』

- 日時：2010 年 8 月 23 日（月）18:00～20:00
- 会場：シェーンバッハ・サボー 3F「穂高」
- 主催：社団法人日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2177.html>

■第 18 回リバーフロント整備センター研究所報告会

- 日時：2010 年 9 月 10 日（金）
- 会場：科学技術サイエンスホール
- 主催：（財）リバーフロント整備センター
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2107.html>

■第 148 回 河川文化を語る会『川と水の法律文化～比較と交流の理解のために』

- 日時：2010 年 9 月 27 日（月）18:00～20:00
- 会場：厚生会館
- 主催：社団法人日本河川協会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2239.html>

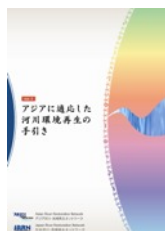
■歴史的用水国際シンポジウム in 金沢

- 日時：2010 年 10 月 14 日（木）～15 日（金）
- 会場：金沢市文化ホール 3 階 大会議室
- 主催：歴史的用水国際シンポジウム実行委員会
- <http://www.a-rr.net/jp/event/03/2154.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 (2009.3 発刊)

- ・発行：アジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）
- ・価格：無 料

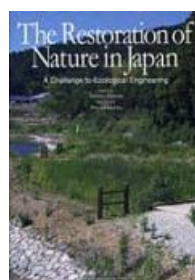


ARRN が今後作成を目指す「アジアにおける河川再生技術指針」の入門編として、非専門家の方々にも河川再生の意義やアプローチを理解して頂くことを目的に、写真や図を主体に平易な解説文を添えて作成致したものです。

本手引きをご希望される方は、「（財）リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。
電話：03-6228-3860 / Fax：03-3523-0640

■The Restoration of Nature in Japan—A Challenge to Ecological Engineering (2010.5 発刊)

- ・監修：廣瀬利雄
- ・翻訳：橘川次郎
- ・出版社：東海大学出版会
- ・価格：¥ 3,675 円（税込）
- ・ISBN：9784486037248



本書は、2007 年に出版された「自然再生への挑戦—応用生態工学の視点から—」（廣瀬利雄監修・学報社）の英訳版で、日本における自然再生事業等の事例を応用生態工学の視点から分析・報告したものです。

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携
わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

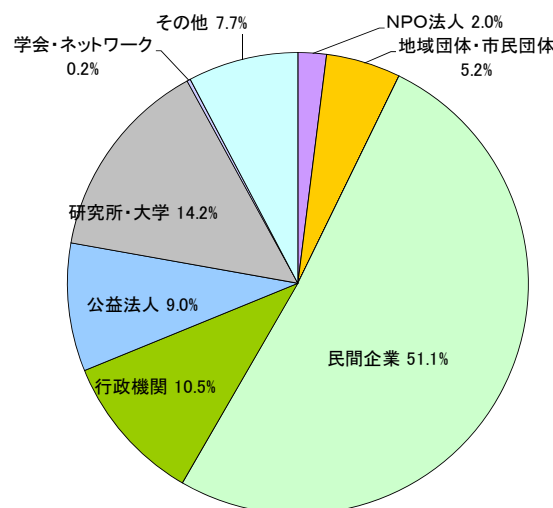
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール
配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参
加することができます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河
川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支
援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2010 年 7 月 28 日時点の個人会員構成
(個人会員数：446 名、団体会員数：19 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で 団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体 名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 ロフテー中央ビル 7 階

Tel: 03-6228-3860 Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

※JRRN 事務局は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、財団法人リバー
フロント整備センターと株式会社建設技術研究所が運営を担っています。